

## 保存樹林の指定について

### （第 6 次指定）

#### ■ 保存樹林の指定基準

指定しようとする樹林が、規則で定める要件に該当し、樹林に属する樹木が健全で、かつ、樹林の樹容が美観上特に優れていること。（杜の都の環境をつくる条例第 19 条第 1 項第 2 号）

規則で定める要件は、次の各号のいずれにも該当すること。（同条例施行規則第 14 条）

(1) 次のいずれかに該当すること

- イ 樹林を構成する樹木の樹冠投影面積の合計が 300 m<sup>2</sup>以上であること
- ロ 並木をなす樹林にあっては、その並木の延長が 100m 以上であること

(2) 樹林の存する土地が、市街化区域内に存し、又は次のいずれにも該当すること

- イ JR 東北本線仙台駅からおおむね半径 10km 圏内に存すること
- ロ 山村振興法第 7 条第 1 項の規定により指定された振興山村の区域以外の区域に存すること

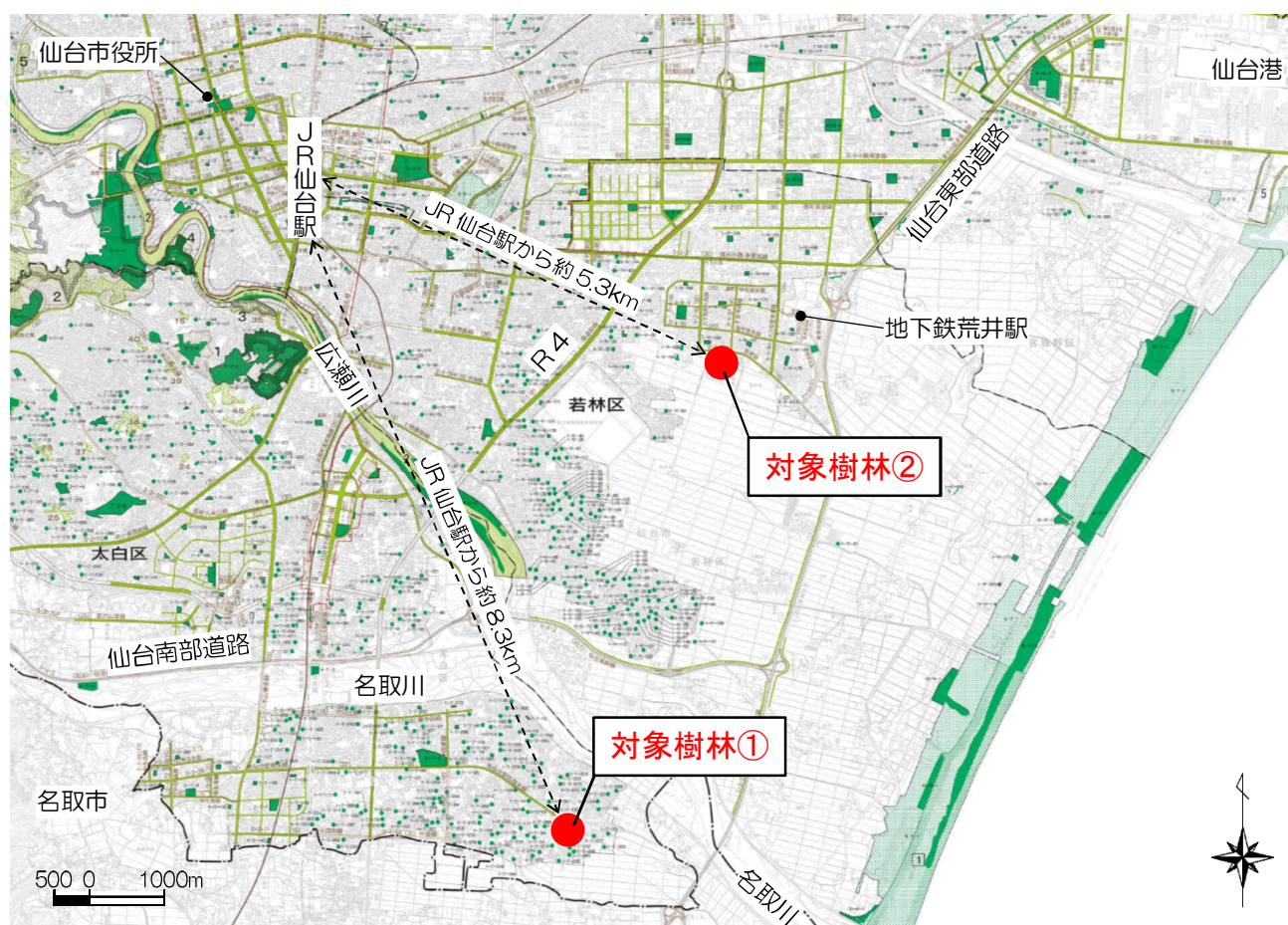
#### ■ 樹木保存区域の範囲

樹木保存区域に指定しようとする土地の範囲について、保存樹木等の樹冠投影面（当該部分に建築物等が建築されている場合は、建築物等の建築面積に相当する部分を除く。）の部分及びその周辺の土地のうち市長が適当と認める部分とする。（同条例施行規則第 15 条）

#### ■ 対象樹林

指定番号	所在地（形態）	都市計画区分	面 積
13	太白区四郎丸字戸ノ内 32（屋敷林）	市街化区域	2,636.52 m <sup>2</sup>
14	若林区長喜城字屋敷 42（屋敷林）	市街化調整区域	1,615.84 m <sup>2</sup>

## ■ 位置図



### ① 太白区四郎丸の屋敷林

#### ● 対象樹林の概要

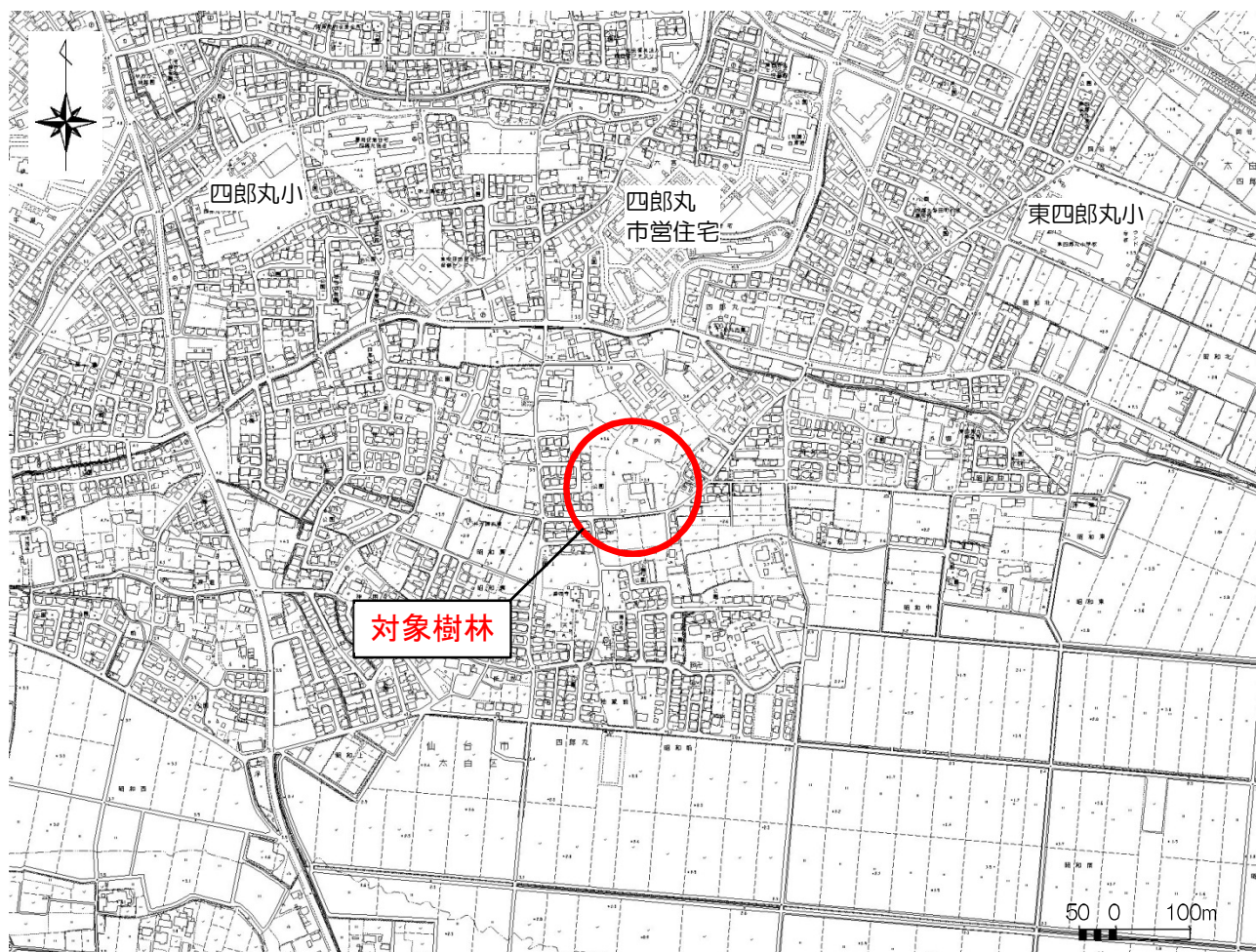
指定番号	13	所在地(形態)	太白区四郎丸字戸ノ内 32 (屋敷林)	
都市計画区分	市街化区域		面積	2,636.52 m <sup>2</sup>
主な樹種	高木：スギ，シロダモ，ヤブツバキ 等			
指定基準該当	施行規則第 14 条第 1 号イ，第 2 号（市街化区域）			

#### ● 指定理由

太白区四郎丸地区は、名取川右岸の平野部に位置し、かつては農村地域であったが宅地化が進む中、仙台平野の代表的な景観である居久根が点在する貴重な地域である。対象地は寛永3年（1626 年）から代々受け継がれてきた名家であり、約 400 年にわたり代々維持されてきたものである。面積 2,600 m<sup>2</sup>、高さ 20mを超える緑の空間は管理も行き届き、平野部に暮らす人々や生き物に好影響を与えてきたと考えられ、仙台平野の 400 年の歴史を想起させる代表的な景観を形成しており、可能な限り後世まで引継ぐべき樹林であると判断される。



● 位置図（太白区四郎丸地区）



● 樹林の様子







(敷地東側より)



(敷地西側より)



↑ (樹林内の様子) →

